

公立大学法人宮崎公立大学  
平成24年度業務実績に関する評価結果

平成25年8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

## 目次

1	事業年度ごとの業務実績の評価方法	…	1
2	全体評価	…	2
3	大項目別評価	…	4
1	教育研究等の質の向上	…	4
2	業務運営の改善及び効率化	…	6
3	財務内容の改善	…	7
4	教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開	…	8
5	その他業務運営	…	9
4	平成24年度事業実績評価に係る項目別評価結果総括表	…	10

## 1 事業年度ごとの業務実績の評価方法

「項目別評価」及び「全体評価」により構成する。宮崎市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」）は、公立大学法人宮崎公立大学（以下「公立大」という。）の作成した実績報告書をもとに、公立大の意見を聴取しながら評価を行う。

### (1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。

また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

### (2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎資料とし、年度計画の大項目（\*）ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。

なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

S	(秀) 特筆すべき進行状況にある（特に認める場合）
A	(優) 計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
B	(良) おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
C	(可) やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
D	(不可) 重大な改善事項がある（特に認める場合）

#### \* 大項目

教育研究等の質の向上／業務運営の改善及び効率化／  
財務内容の改善／自己点検・評価及びその情報公開／  
その他業務運営／予算

### (3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画の取り組みを総括する。

また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取組やさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。

なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

## 2 全体評価

公立大は、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできたところである。

6年間に及ぶ第1期中期目標期間の最終年度となる平成24年度の業務実績について、その内容を点検した結果、年度計画を十分に達成できなかった取組も一部認められたが、全体を通して概ね計画を順調に実施できたものと判断される。

特に、教育研究等の質の向上については、Ⅲ及びⅣ評価の合計の割合が87%と若干9割に満たず、C評価としたところではあるが、教育面において、英国スターリング大学との新たな学術交流協定締結や、授業料減免制度に代わる独自の奨学金制度を確立するなどの実績を残している。

また、事業内容では、「キャリア設計」の見直しにおける民間企業のトップやグローバル企業の社員を講師に招いたことや、FD研修会実施における、教育の質の向上や教員間のコミュニケーションの促進に向けた取組などは、教育内容の充実や学生支援に向けた取組として大変評価できる。

なお、9割に満たなかった要因としては、地域貢献の分野の一部の取組に対する進捗が計画を達成しなかったものであり、地域に根ざし、愛される大学として、一層の取組を期待する。

その他、オープンキャンパスの開催回数を増加したことで参加者を増加させたことや、スクールカラーや新たなシンボル等の策定を行うなどの広報戦略の強化を図るなど、社会情勢の急激な変化や大学ニーズの多様化などに対し、大学が鋭意迅速に対応していることが伺え、これらの取組も高く評価できる。

一方、ハラスメント防止対策については、これまでの取組を是正措置報告書としてとりまとめ、組織機能の強化や教職員に対する更なる意識改革の徹底、並びに被害者に寄り添った支援の確立に取り組んできたところであるが、学生や市民等の評価が短期間で変わるものではない。したがって、今後とも、二度と発生させないための懸命の取り組みを教職員一丸となって持続していくことを改めて求めている。

平成25年度からは第2期中期目標期間となるが、平成24年度までの業務実績の分析、評価結果を踏まえ、新たな中期目標・中期計画における着実な達成を期待する。

最後に、公立大は、開学20周年の節目を迎え、改めて個性ある大学づくりに教職員が一体となって取り組み、地域に根ざし、地域に愛され、地域に開かれた大学として、なお一層発展することを強く期待する。

## (2) 今後の課題

- ①教育内容と方法に関する取組については、特にPACSの構築について、当初想定していたシステムに加え、様々な付加機能を開発したところではあるが、活用にまでは至っていない。今後は出来るだけ早期に活用法を確立し、実践していくことが求められる。
- ②教育支援体制に関する取組については、新たな評価体制の取組として、教員評価制度の完全実施に向けた検討など、教員の資質の向上を図るために、今後とも先進事例等の様々な情報の収集など、課題を整理することが求められる。
- ③地域貢献に関する取組については、地域の教育委員会との連携や地域発展や福祉の充実に貢献する取組など、具体的な対応について難しい問題であることが伺えるが、引き続き検討・調整を図るなど、着実に実績を積んでいくことが求められる。

### 3 大項目別評価

#### 1 教育研究等の質の向上

##### (1) 評価結果及びその判断理由

###### ア 評価結果

###### C (やや遅れている)

###### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数85項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価した項目が74項目であり、全体に占めるその割合が9割に満たないため、C評価（やや遅れている）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
85	17	57	11	0

##### (2) 評価委員会の意見等

###### ア 特筆すべき点

- ・担当教員による節目ごとに行われる意見交換会は、内容を充実するために有効である。  
【No. 3：「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」－担当者意見交換会の内容充実】
- ・「基礎協議」の最低要求水準の検討について、学生側の負担も考慮していることは、量から質への転換という点で評価できる。  
【No. 6：「基礎講義」－最低要求基準の徹底】
- ・キャリア教育の充実に向けて、社会人講師として、民間企業のトップやグローバル企業の社員も招いたことは評価できる。  
【No. 8：「キャリア設計」の見直し】
- ・FD活動の充実については、研修会の内容充実や調査研修も十分なされているものと評価できる。  
【No. 25：FD研修会実施】
- ・多岐にわたる諸活動は、受け入れ先のニーズ、学生のニーズという両面から実に効果的である。具体的な取組実践例も多く大いに評価できる。  
【No. 87：教職課程の改善についての研究】
- ・公開講座、語学講座等の開催状況は十分評価Ⅳに値するものである。  
【No. 110：地域住民の生涯学習ニーズへの対応】

- ・「魅力ある大学づくり委員会」が多く開催され、そこで検討された内容は、本学の状況に鑑み、その充実進化を図ることとして整理されているものとして評価できる。

【No. 136：推進体制の構築／外部機関による調査の実施／魅力ある大学づくりに向けての検討】

#### イ 遅れている点

- ・PACSの構築について、最終年度まで付加機能を含めた開発に取り組んだが、システムの運用の着手に至らなかったことは残念である。

【No. 1：チェックリストシステムPACSの構築と実施】

- ・「講義演習」について、検討結果に関しては、カリキュラム検討委員会等への提案にまで繋げてほしかった。

【No. 5：「講義演習」－最低要求基準の徹底】

#### ウ その他の意見等

- ・卒業論文発表会の案内チラシについては、是非学生の出身高校等への配付も検討すべきである。

【No. 16：卒業論文の成果を広く公表する】

- ・教員評価制度の試行について、特に、学生による授業評価については、評価基準を理解周知しないと信憑性に欠ける危険性もある。学生自身の自己評価も参考にしていく必要がある。

【No. 24：新たな評価体制の検討/ 多角的な視点から適正な評価が可能となる教員評価制度の構築】

## 2 業務運営の改善及び効率化

### (1) 評価結果及びその判断理由

#### ア 評価結果

##### A (計画どおり)

#### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数6項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
6	1	5	0	0

### (2) 評価委員会の意見等

#### ア 特筆すべき点

- ・特になし。

#### イ 遅れている点

- ・特になし。

#### ウ その他の意見等

- ・特になし。

### 3 財務内容の改善

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

##### A (計画どおり)

##### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数7項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
7	0	7	0	0

#### (2) 評価委員会の意見等

##### ア 特筆すべき点

- ・特になし。

##### イ 遅れている点

- ・特になし。

##### ウ その他の意見等

- ・特になし。

#### 4 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開

##### (1) 評価結果及びその判断理由

###### ア 評価結果

###### A (計画どおり)

###### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数3項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
3	1	2	0	0

##### (2) 評価委員会の意見等

###### ア 特筆すべき点

- ・特になし。

###### イ 遅れている点

- ・特になし。

###### ウ その他の意見等

- ・特になし。

## 5 その他業務運営

### (1) 評価結果及びその判断理由

#### ア 評価結果

##### A (計画どおり)

#### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数5項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
5	0	5	0	0

### (2) 評価委員会の意見等

#### ア 特筆すべき点

- ・特になし。

#### イ 遅れている点

- ・特になし。

#### ウ その他の意見等

- ・「情報セキュリティポリシー」を策定し、研修会まで実施している。さらに、学生向けの研修が実施されていれば、評価Ⅳも可であったのではないか。

【NO. 174：行政やNPO主体の国際交流活動の研究】

#### 4 平成24年度事業実績評価に係る項目別評価結果総括表

区分 (大項目) (中項目) (小項目)	項目数	項目別内訳				項目別構成割合				計	平均値	大項目別における評価	
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価4	評価3	評価2	評価1			評価4、3の割合	判定
<b>教育研究等の質の向上に関する目標</b>	<b>85</b>	<b>17</b>	<b>57</b>	<b>11</b>	<b>0</b>	<b>20%</b>	<b>67%</b>	<b>13%</b>	<b>0%</b>	<b>261</b>	<b>3.07</b>	<b>87%</b>	<b>C</b>
1 教育研究等の質の向上に関する目標	58	12	39	7	0	21%	67%	12%	0%	179	3.09		
(1) 教育内容と方法に関する目標	14	4	8	2	0	29%	57%	14%	0%	44	3.14		
(2) 教育支援体制に関する目標	9	3	4	2	0	33%	45%	22%	0%	28	3.11		
(3) 学生支援に関する目標	19	3	15	1	0	16%	79%	5%	0%	59	3.11		
(4) 学生の確保に関する目標	16	2	12	2	0	13%	74%	13%	0%	48	3.00		
2 研究に関する目標	14	1	12	1	0	7%	86%	7%	0%	42	3.00		
(1) 研究の方向と水準の向上に関する目標	6	1	4	1	0	17%	66%	17%	0%	18	3.00		
(2) 研究体制等の整備に関する目標	8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00		
3 地域貢献に関する目標	12	3	6	3	0	25%	50%	25%	0%	36	3.00		
(1) 教育研究成果の地域への還元に関する目標	11	2	6	3	0	18%	55%	27%	0%	32	2.91		
(2) 地域の国際化及び国際理解に関する目標	1	1	0	0	0	100%	0%	0%	0%	4	4.00		
4 魅力ある大学づくりに関する目標	1	1	0	0	0	100%	0%	0%	0%	4	4.00		
<b>業務運営の改善及び効率化に関する目標</b>	<b>6</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>17%</b>	<b>83%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	<b>19</b>	<b>3.17</b>	<b>100%</b>	<b>A</b>
1 組織運営の改善に関する目標	4	1	3	0	0	25%	75%	0%	0%	13	3.25		
(1) 機動的な運営体制の確立	2	1	1	0	0	50%	50%	0%	0%	7	3.50		
(2) 予算の戦略的で効率的な活用	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
(3) 外部意見の積極的な活用	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
2 人事の適正化に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00		
(1) 法人化のメリットを生かした人事制度の構築	8	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00		
(2) 人事評価制度の確立	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-		
<b>財務内容の改善に関する目標</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>	<b>100%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	<b>21</b>	<b>3.00</b>	<b>100%</b>	<b>A</b>
1 自己収入の増加に関する目標	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00		
2 経費の抑制に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
3 資産の運用管理の改善に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
<b>教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>33%</b>	<b>67%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	<b>10</b>	<b>3.33</b>	<b>100%</b>	<b>A</b>
1 自己点検・評価に関する目標	3	1	2	0	0	33%	67%	0%	0%	10	3.33		
<b>その他業務運営に関する重要目標</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>	<b>100%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	<b>15</b>	<b>3.00</b>	<b>100%</b>	<b>A</b>
1 施設設備の整備・活用に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
2 安全管理に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00		
3 情報公開の推進に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
4 人権に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00		
<b>合 計</b>	<b>106</b>	<b>19</b>	<b>76</b>	<b>11</b>	<b>0</b>	<b>18%</b>	<b>73%</b>	<b>10%</b>	<b>0%</b>	<b>326</b>	<b>3.08</b>		